

優しく強い子に！



<http://www.minamih.net/>
19・6・25(水)
南NEWS no 36

もっとやりたい！！

矢上がC級の指導者講習を受けた時に何度も言われた言葉です。

「『もっとやりたい！』と子ども達が言ってくれる楽しい練習の工夫を」。

以下の写真は、6月23日(日)午前中のCクラス、1年生と幼児、計7人の練習風景です。

清水コーチが、楽しい練習をと、遊びの要素を取り入れたメニューを考えて、子どもたちが喜ぶ1時間半の練習になりました。

教室でも、「先生もっとやろうよ」と言ってくれる授業ができたときは教師にとって至福の時間です。

この日の可愛い子ども達は何度も

「もっとやりたい1」

と言っていました。

by 南の安版万



コーンに当てて上に載せたマーカーコーンを落とすゲームです。



グリッドの中にいる子ども達に向けて保護者のみなさんがボールを蹴って転がします。子ども達は歓声を上げながら避けています。終わると、「もっとやりたい」という声が何度も聞こえてきました。



シュート練習、ゲームが終わった後は大きなトンボを引っ張ってグラウンド整備。とってもきれいになったね！！お疲れ様！！これも貴重な学びです。

午後練のサッカドボンも子どもたちに好評です。勝つと歓声を挙げて次の上位の大会のピッチに向かっていきます。

4つのピッチで、天皇杯→アジア大会→オリンピック→ワールドカップと、縦割りのチームで1対1のゲームをして、チームの合計得点が相手チームを上回れば上位の大会に進める、負ければ下位の大会に下がるのです。午後練の欠かせないメニューです。



6月23日は沖縄戦全戦没者の慰霊の日です。

1945年4月1日に沖縄本島の読谷村(ヨミタンソン)に米軍が上陸して、山野の形が変わってしまうほどの鉄の暴風雨に曝されて、沖縄守備隊の総司令官牛島中将の6月23日の自決によって終結した戦いです。沖縄戦で日(台湾や朝鮮の人々も含む)・米合わせて20万人を越える人が亡くなり、沖縄の住民は4人に1人が命を奪われたのです。米軍の砲弾だけではなく、守ってくれるはずの日本軍に命を奪われた人たちもいたのです。

矢上は沖縄を3度訪れています。いずれも平和教育をするための学びの旅です。30年前の第1回の訪問では、読谷村に米軍が上陸した日、チビチリガマ(洞窟)に避難していた村民の一人、ガマの中で、集団自決によりわが子をなくした知花カマドさんにお会いしてお話も伺いました。

今も、日本の国土の総面積の0.6%の広さしかない沖縄に日本にある米軍基地の70%が集中していて、様々な問題が惹き起こされています。

今年の沖縄全戦没者追悼式で朗読された詩です。

本当の幸せ

糸満市立兼城(かねぐすく)小学校6年の山内玲奈さん

青くきれいな海
この海は
どんな景色を見たのだろうか
爆弾が何発も撃ち込まれ
炎で包まれた町
そんな沖縄を見たのではないだろうか

緑あふれる大地
この大地は
どんな声を聴いたのだろうか
けたたましい爆音
泣き叫ぶ幼子
兵士の声や銃声が入り乱れた戦場
そんな沖縄を聴いたのだろうか

青く澄みわたる空
この空は
どんなことを思ったのだろうか
緑が消え町が消え希望の光を失った島
体が震え心も震えた
いくつもの尊い命が奪われたことを知り
そんな沖縄に涙したのだろうか

平成時代
私はこの世に生まれた
青くきれいな海
緑あふれる大地
青く澄みわたる空しか知らない私
海や大地や空が74年前
何を見て
何を聴き
何を思ったのか
知らない世代が増えている

↓
体験したことはなくとも
戦争の悲惨さを
決して繰り返してはいけないことを
伝え継いでいくことは
今に生きる私たちの使命だ
二度と悲しい涙を流さないために
この島がこの国がこの世界が
幸せであるように

お金持ちになることや
有名になることが
幸せではない
家族と友達と笑い合える毎日こそが
本当の幸せだ
未来に夢を持つことこそが
最高の幸せだ

「命どう宝」(ぬちどうたから)
生きているから笑い合える
生きているから未来がある

令和時代
明日への希望を願う
新しい時代が始まった
この幸せをいつまでも

※「命どう宝」は沖縄
言葉で「命こそ宝だ」
という意味です。

詩を朗読する
山内さん



